

戦後六十五周年記念誌

我孫子から発信

平和への祈り



我孫子市

住

平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかしながら、今日なお世界の動きは、核戦争の危機をはらみ、誠に憂慮にたえない。

わが国は唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさと、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再び広島・長崎の惨禍を繰り返してはならない。

我孫子市は市民の生命と安全を守るため、いかなる国のいかなる核兵器に対しても、その廃絶を求め、ここに平和都市を宣言する。

昭和六十年十二月三日

我孫子市

我孫子市平和事業推進条例

平成二十年六月三十日

条例第二十四号

(目的)

第一条 この条例は、我孫子市平和都市宣言（昭和六十年十二月三日）の趣旨を踏まえ、世界の恒久平和を願う市民の協力と参加のもとに平和事業を推進することを目的とする。

(平和事業)

第二条 本市は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を実施する。

- (一) 平和に関する情報の収集、保存及び提供に関すること。
- (二) 国内外の都市との平和交流の推進に関すること。
- (三) 平和に関する教育の推進に関すること。
- (四) 平和に関する講演会、演奏会、展示等の実施に関すること。
- (五) 平和祈念式典の実施及び平和記念碑の維持管理に関すること。
- (六) 前各号に定めるもののほか市長が必要があると認めるもの

(市民組織)

第三条 本市は、平和事業を円滑に実施するため、我孫子市平和事業推進市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

二 市民会議は、平和事業に関し意見を述べ、又は参画することを任務とする。

三 市民会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 一 この条例は、平成二十年七月一日から施行する。

平和の記念碑

碑文

街は静かな朝をむかえていた。

昭和二十年八月六日午前八時十五分

人類最初の原子爆弾は広島市に投下された。

鋭い閃光を放ち爆発した原子爆弾は巨大な

火の玉と化し熱線と爆風をこの街にたたきつけた。

大人も子どもも街と共に消え失せた。

この石は爆心地に近い広島市旧庁舎の側壁と敷石である。

もの言わぬ被爆の証人として

人々の心に訴えている。

再び戦争というあやまちを繰り返してはならない………と



手賀沼公園内にある我孫子市平和記念碑

戦後六十五周年記念誌

「我孫子から発信 平和への祈り」の発刊にあたって

我孫子市は、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、昭和六十年に「平和都市宣言」を行いました。また、平成二十年には、市民の協力と参加のもとに平和事業を推進するため、平和都市宣言の趣旨を踏まえて、我孫子市平和事業推進条例を制定しました。

我孫子市では、大戦の記憶をきちんと次の世代に伝えること、今も世界の各地で起きている紛争の現実を知り、多くの市民が平和の大切さを願い、様々な平和への取り組みにつながることを目的に平和事業を行っています。

戦後六十五周年となる今年度は、戦争を知らない世代に戦争について伝え、考えてもらいたいという思いから「平和への祈り」をテーマに、市民の方からお借りした当時の貴重な品を展示した戦争資料展や、広島市平和祈念式典への中学生派遣、小学校高学年と中学生を対象とした平和について考える小冊子の発行などを行いました。

本書は、我孫子市の戦後六十五周年事業の締めくくりとして発刊します。二百名近くの方々から寄せられた、戦争体験記や平和への思いなどが綴られています。

終戦から六十五年が経過した今、貴重な体験が語られる機会はどんどん減っています。本書が、風化しつつある記憶を留め、戦後の平和な日本に生まれ「戦争を知らない」若い世代に平和の尊さを「語り継ぐ」資料となれば幸いです。

本書の発行に当たっては、体験や思いを寄せてくださった方、聞き取りボランティアの方、我孫子市平和事業推進市民会議の委員など多くの皆様にお力添えをいただきました。ご協力いただきました皆様に、心から感謝を申し上げます。

この冊子を一人でも多くの方にご覧いただき、平和について考えるきっかけにいただければと願っています。

二〇一一年 二月

我孫子市長 星野 順一 郎

戦後六十五周年平和事業記念誌刊行によせて

六十五年前の「不戦の誓い」を後世に繋ぐために……

昭和二十（一九四五）年八月十五日に生まれた人が、すでに六十五歳を過ぎました。

このことはいささかでも戦争時代にかかわったという人が、高齢者になったということです。それはとりもなおさず、戦場であるいは銃後で、戦争の体験を生身で味わったこととして語り継げる人が、わずかになってしまったことを示しています。

日本国民の大半が戦争を知らないという時代になった——だからこそ、六十五年前に「二度と過ちをおこしませんから」と誓った日本国民の心からの叫びを、今生きている私たちは真の平和を求める先輩たちからの遺言として、後世の人々に受け継ぐことが大切になっていると思います。

特に今夏、初めて広島平和記念式典に原子爆弾を投下したアメリカが参加しました。このことは世界の平和を希求する潮流が少しずつ変わり始めてきたことを示しています。

しかし、現実には、世界で唯一の被爆国として「非核三原則」を国是とする私たち日本国民の願いとはかけ離れて、核実験が繰り返されています。さらに、アフガンをはじめ世界のいたるところで戦が続き、自爆テロといった恐ろしい形で象徴される、人と人が殺しあうことが続いています。ひとりひとりは憎しみ合うことがないはずなのに……です。

今回、より多くの我孫子市民が自らの体験を通して得た平和への思い・願いを記し・残し・伝えることで、

時代や社会が私たちに学ばせた大切なことを後世に繋げられるのではないかと、記念誌を刊行しました。

多くの我孫子市民の方々が貴重な体験をお寄せくださったことに感謝するとともに、この記録が後世の人々の平和を考えることの一助になればと願っています。

二〇一一年二月

我孫子市平和事業推進市民会議

委員長 水津 洸一郎